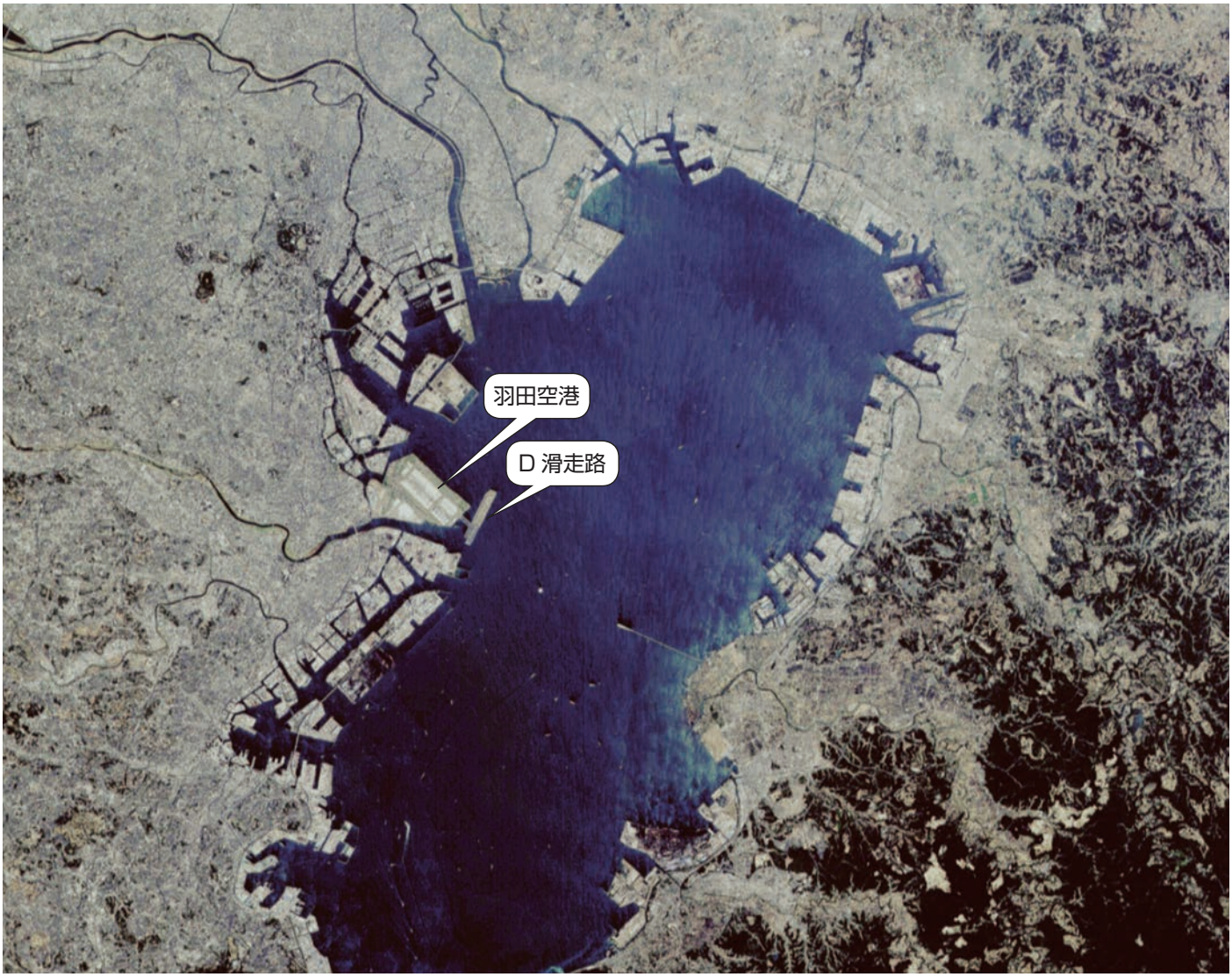
東京国際空港（羽田空港）第4期拡張工事

東京国際空港は1931年東京飛行場としての開港以来、東京の空の玄関口として活躍してきた。戦後一時期進駐軍に接収されていたが、1958年全面返還され、東京国際空港として、我が国の空の玄関口の役割を担うこととなり、さらにジェット時代を迎えて規模が拡大してきた。1978年の新東京国際空港（成田空港）開港により国内線空港を中心とする方向への役割の変化があったものの、航空輸送需要の急拡大を踏まえて、滑走路の延伸、沖合への拡張等によりその規模を拡大してきた。その後、さらなる需要の拡大に対応すべく、第4期拡張工事が行われ、D滑走路の新設、国際線地区の旅客ターミナルビル、貨物ターミナル、エプロン等の整備が行われた。画像は2011年4月に「だいち」から撮影された東京湾付近のデータをトゥルーカラー合成したものである。裏表紙見返しの2006年の画像と比べると、D滑走路の完成により空港機能が強化されていることが分かる。また、D滑走路の埋め立て・桟橋組み合わせ構造が色の違いとして認められる。



衛星データ　©JAXA　Distribution PASCO
「だいち」からみた東京湾周辺　2011年4月

過去の「国土の姿を見る」画像集は次のURLでご覧いただけます。http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html